

中心に、計40種近くの生育が知られるが、そのモノグラフの研究は古く宮部金吾博士による“昆布科：1-60、北海道水産調査報告巻之三”北海道殖民部水産課刊行（1902）（この書は後に英文に翻訳され *On the Laminariaceae of Hokkaido* の題名で1957年北海道大学農学部より出版されている）がある程度で、その後まとまった研究や出版物はなかった。著者の川嶋博士は道立水産試験場在勤の頃に、北大理学部時代の恩師山田幸男教授よりコンブ類の研究を強く薦められ、同時に数十葉のコンブ類の単彩画の提供を受け、爾来この藻群について注意を払ってきたが、特に1985年定年退官後はコンブ類研究に専心してきたという。本書には千島列島産5種を加え合計39種類のコンブ類が収録され、それらのほぼすべてにA4判変形の1ページ大の図があり、さらに学名、異名、分布、形態、生態、その他の特徴、製品用途、学名の解説、および図の説明の解説文が添えられる。最近コンブ類は、食品や海中林の構成海藻あるいはウニやアワビの餌料としてだけでなく、生理活性物質探索の対象あるいは新しいバイオマス利用資源としてなど、多くの注目を浴びようになっている。本書は、著者が願ったように、単なる分類図鑑としてだけでなく、もっとコンブを知りたい人、あるいはコンブ利用の実際に携わる人達にも優れた参考書となるであろう。本書はまた日本産コンブ科植物の分類学研究の集大成でもある。この学問分野への寄与は極めて大きく、先の宮部博士の場合のように、英文版の刊行が期待される。（千原光雄）

□西澤一俊：海藻と成人病予防 183 pp. 1993. 研成社，東京。¥1,300.

著者は先に同じ出版社より「海藻の本一食の源をさぐる」と題する本を出版したが、今回は、健康食品や成人病予防の観点から海藻を記述したもので、幾つかの項目をあげると、海藻に含まれるアルギン酸の血圧調節機能、ラミニンと血圧、フコステロールの血圧低下能と抗血液凝固活性、海藻の食物繊維、褐藻の有機型ヨウ素、緑藻、褐藻、紅藻のヘパリノイド、血糖値を低下させるオバクサタンパク質、海藻のビタミンと抗生物質、

海藻のミネラル成分と有効性などがある。著者はよく薬理実験や疫学的調査などのデータを集め、成人病予防による海藻主要成分とその機能について解説している。ともすると難解な記述になりがちな領域であるが、広く一般向けとすることで、解説は平易で理解しやすい。類書に乏しいだけに貴重な出版物と言える。（千原光雄）

□Ohno M. and Critchley A. T. ed.: *Seaweed Cultivation and Marine Ranching* 151 pp. 1993. Kanagawa International Fisheries Training Centre, Japan International Cooperation Agency (JICA). ソフトカバー ¥2,000, ハードカバー ¥2,500.

日本は古くから海藻をよく利用する国であり、そのことから特に利用出来る海藻についての応用研究は盛んで、ノリ、ワカメなどをはじめとする海藻栽培の技術は諸外国の追従を許さないものがある。しかし残念なことにその技術を解説した本のほとんどすべては日本語版であり、日本人以外の目に触れることは少なかった。本書は、海藻栽培と利用の理論と実際を研修するために来日する開発途上国の人々の *Training Course* 用に、JICAの援助を得て作られたもので、執筆者は9名（うち日本人5名、フィリッピン人3名、南アフリカ人1名）で、11章から成る。日本の海藻栽培が中心であるが、外国、例えばフィリッピンのキリンサイ栽培なども紹介され、各章は次のようである。序論—海藻資源、ヒトエグサとアオリの養殖、クビレズタ、コンブ、ワカメ、オキナワモズク、ノリ、キリンサイと *Kappaphycus*、オゴノリ属、人工海藻礁の造成、海藻と海洋牧場におけるその役割。最近、寒天やカラゲenan原藻としての海藻、健康食品としての海藻、生理活性物質探索源としての海藻ということで、海藻に注目をもつ外国人も少なくない。時宜を得た刊行物である。なお購入希望者は高知大学海洋教育研究センター大野正夫氏（781-11 高知県土佐市宇佐町井尻194）に直接申し込むこと。（千原光雄）

□Bird C. J. and McLachlan J. L.: *Seaweed Flora of the Maritimes 1. Rhodophyta—the Red Algae* v + 177 pp. including 65 plates. 1992. Biopress Ltd.,

The Orchard, Clanage Road, Bristol BS3 2JX England. £39.50+£4 p & p; Can \$90+\$9; US \$75+\$8.

アメリカ沿岸と違って、カナダ大西洋沿岸では海藻フローラについて纏まった本が少なく、とくに本書が取り上げたノヴァスコチアの海藻については種の特徴を示す図を伴った書物はなかった。カナダ NRC の Institute for Marine Biosciences に勤務し、永年この海域の海藻の分類、分布の研究に従事してきた著者等はノヴァスコチア付近で普通に見られる代表種を選び、特徴を記述するとともに、それを図示し、専門家でなくても種の同定が出来る様な本を数巻にわたって作ることを企画した。本書はその第一冊目で、扱われる分類群は紅藻類である。ノヴァスコチア付近では計約 128 種の紅藻が知られるが、記述される種は 73 で、見開きの左ページに解説文があり、右ページに特徴を示す全形図や顕微鏡写真図が掲載される。写真は黒白であるが、ポイントとなる諸特徴は良く撮られており、同定用には便利である。各種類の解説の他に、主な生活環の図と解説、分類表、属の検索、術語解説等が添えられる。第二巻は褐藻、続いて緑藻の刊行が予定されている。なお、掲載種の標本はすべて The Herbarium of National Science Council (NRCC) に保管されてある由。

(千原光雄)

□Margulis L., McKhann H. I., and Olendzenski L., ed.: **Illustrated Glossary of Protoctista** xliii + 288 pp. 1992. Jones and Bartlett Publ., Boston. ¥10,500.

Margulis 等は先に藻類、繊毛虫、有孔虫、孢子虫、卵菌、粘菌など、彼等が Protoctista と呼ぶ下等真核生物の分類、形態、細胞構造、生殖、分布、系統、及び進化などについて最新の情報を盛った“**Handbook of Protoctista**” (1990) と題する 900 ページに及ぶ大著を世に問うたが、今回の本はその図解付き用語解説版である。Margulis によると“Protoctista”はスコットランドの生物学者 John Hogg (1861) の造語で、動物でも植物でもないものに対する語であるという。しかし、この本で扱う生物群は、4 界説の Copeland

(1956) の Protoctista から卵菌以外の真菌を除き、そして緑藻を含ませるものであり、5 界説の Whittaker (1959) の Protista が単細胞生物のみを含むのに対し、多細胞で組織をもつ生物も含むものである。Monera (Prokaryota), Fungi, Animalia 及び Plantae 以外のすべての生物ということになる。Protoctista には、I 鞭毛が無く、有性生殖を欠くグループ…根足類など 5 門 (Phylum), II 鞭毛は無く、有性生殖をもつグループ…細胞性粘菌、紅藻、接合藻など 4 門, III 鞭毛はもつが、有性生殖を欠くグループ…クリプト藻、ユーグレナ藻、ハプト藻、ラビリンス菌など 14 門, IV 鞭毛をもち、有性生殖をもつグループ…黄金色藻、硅藻、緑藻、卵菌、黄緑藻、褐藻など 12 門が所属する。執筆者は合計 74 名で、藻類関係で言えば、Melkonian や Moestrup など第一線級の研究者達が名を連ねる。新造語もある。例えば undulipodia で、これは真核生物のいわゆる 9+2 構造の鞭毛や繊毛を指す語で、従来の flagella は細菌の鞭毛に限って用いている。

用語解説に続いて科や目の分類上の所属が記述され、最後に門、綱のそれぞれの特徴と分類表が添えられる。

(千原光雄)

□折目庸雄：富里の植物 私費出版。155pp. 1993. ¥3,000+送料 ¥340.

千葉県北総台地の中央部の富里町の植物を、近年退職した著者が 4 年をかけて調査した報告である。千葉県立中央博物館の大場達之氏をはじめ同館職員の指導をうけ、標本はすべて同館標本室に納められている。種子植物・シダ植物 1306 種類が、日付、産地名、標本番号、位置座標 (1 キロメッシュ) で記録されている。調査の実質の期間は丸二年だそうだが、短期間にこれだけの成果をあげるには、綿密な計画と精力的かつ几帳面な調査活動があったことが想像される。『「自然の変貌は確かである」とは言うものの、それは全く抽象的・観念的な表現に過ぎない。……「自然保護」「文化財を大切に」という声大きい。……しかし声だけに留まっていたのでは永久に空念仏で、大切にもされなければ保護も果たせないだろう。たとえ年月がかかろうとも誰かが具体的な資料を